

日付:2016年3月27日／聖書:マルコによる福音書16:1～8

説教:「復活の朝」

神の使いは空の墓の前で、《あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる》と告げる。ガリラヤとは以前イエスが宣教した場所であり、弟子たちや彼女たち(マグダラのマリアたち)の生活の場所であった。そこに主が先立ち、そこでお目にかかれると言う。再び“ガリラヤへ”とはどういう意味なのか？

これまで弟子たちは、イエスとガリラヤで出会い弟子となり、共に福音宣教を担ってきた。そしていよいよ都エルサレムに入場した時、弟子たちは、きっとイエスさまはこの宗教と経済の中心地であるエルサレムで、ご自身の力を発揮されて、栄光を掴み取って下さる。このエルサレムこそが、宣教のゴールと弟子たちは考えていたはずである。しかし、ここに来てイエスの十字架という思いもよらない結末にどれほど落胆したことか。このゴールと思ったエルサレムが、実はそうではなかった。再び、ガリラヤへと告げられていく。

これは、ようするに振り出しに戻るという事である。もう一度ガリラヤに戻り、イエスが生き、教え、人々と共に歩み、神の国の希望を語られたあのガリラヤの地に帰れと言うこと。そしてイエスの言葉と御業を思い起こし、その歩みにならって歩みだしてみる。その歩みの中にこそ、復活のイエスは現れるであろうと言うこと。その歩みの中でこそ、殺されても決して死ぬことはない復活の命に触れ、あのイエスの命が今もなお生きて働いていることを経験するということ。マルコ福音書は、そういう復活のメッセージを私たちに残しているということであろうかと思う。

では、私たちのガリラヤとはどこなのか？ 私たちの主イエスは、大きな石で閉じ込めておくことが出来なかったように、どのような場においても、イエスは石を押しつけて先立ちてくださる…。場所を越え、時代を越えて、イエスはいつも私たちよりも前に行かれる。私たちは、私たちに示された、私たちのガリラヤにおいて、イエスと共に歩ませて頂きたいもの。2016年の復活の朝に、希望をもってこの年をも歩んで行こう。(神谷)